



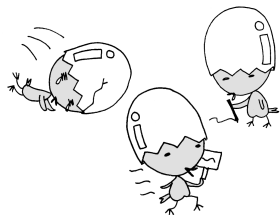
作って学ぶ  
VISUAL BASIC .NET

瀬戸 遥

SETO, Haruka

<http://www.big.or.jp/~seto/>

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA006682/>



## ハイパー占い・ベガを作る—その3— 実動コードの組み込み

### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

### Level



### Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥TAMAHYOディレクトリに収録しています。

¥HYPERVEGA3  
今回のサンプル



### 今月のお題

「ハイパー占い・ベガ」の作成もいよいよ最後になります。

この占いプログラムのように、ユーザーの操作に回答した形で処理を実行するのが、Windowsアプリケーションの大きな特徴です。前号では、コードを組み込むにあたって、「コードとは何か」、Windowsプログラミングの最大の特徴である「イベント処理とは何か」について説明をしました。

そこで、今月はプログラムにコードを実装する手段、コードの書き方について紹介してゆきます。



### コードの内容はこんな感じ

今回作成するコード処理の内容は、以下の項目になります。各項目の詳細については、実際のコー

ドを提示しながら順に説明してゆきます。

- ①プログラム起動（フォーム初期化）時に、ドロップダウンリストボックスの先頭項目を選択状態にする
- ②乱数を発生させる
- ③乱数を使って、占い文章を選ぶ
- ④占い文章をLabelコントロールで表示させる
- ⑤占い処理を繰り返さないように、「占う」ボタンを無効にする
- ⑥プログラムを終了させる処理を作成する



### コードエディタを使ってみよう

コードを組み込むには、「コードエディタ」を使用します。まずは、このコードエディタについて見てみましょう。

“エディタ”とは、文字の入力／

編集を行なうソフトのことです。基本的な操作はワープロソフトと同じようなものですが、文字の色やアミ掛け、作表や図の挿入など、文書を装飾する機能は一切持たず、純粋な文字（文字列）の入力と編集を行なう機能だけを持ちます。Windowsに付属する「メモ帳」のような機能だと思ってください。ただし、Visual Basic .NETのコードエディタは、以下のように、メモ帳よりずっと高度な編集機能を持っています。

### 機能1 文字入力／編集

入力文字／文章の編集機能は、基本的な使い方はメモ帳と一緒です。マウスまたはキーボードの [Shift] + 矢印キーで入力文字列を範囲選択し、コピー／ペーストなどが行なえます。

### 機能2 入力した文字列を色別に表示

Visual Basic .NETの言語に使われている単語は青色で、コメント欄は緑色でというように、文字列を色別に表示します。また、入力したVisual Basicの構文にミスがあると、その部分の下部に波線を表示し、入力ミスがあることを知らせてくれます。

### 機能3 入力候補の表示

コードを入力してゆくと、フォームやコントロールをはじめとする各オブジェクトが持っているプロパティやメソッドなどの入力候補を、リスト形式の一覧で表示します（図1）。この一覧から入力したい値や文字を選ぶと、キーボードから直接入力することなく記述されます。これにより、つまらない入力ミスを未然に防ぐことができます。

図1：変数宣言時にデータ型の候補を表示してくれる



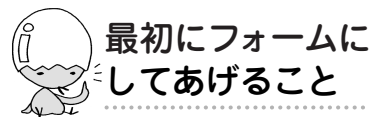
### 機能4 インデント機能

Visual Basic .NETなどのプログラミング言語ではコードを見やすくするために、ブロックコードなどにインデント（字下げ）を活用します。以下のコード例では、2行目と3行目が4文字分右に字下げされています。コードエディタには、この字下げを自動で行なう機能が付いています。

```
If TsitemForm.YearTextBox.Text = "" Then
    MsgBox "西暦を入力してください"
    Exit Sub
End If
```

← 4文字分  
右に字下げ

このほか、入力操作のやり直しや、元に戻す操作も、かなりの回数にさかのぼって行なうことができますから、失敗を恐れずどんどんコードを入力してください。



### 最初にフォームに してあげること

では、コードエディタを使って、処理の内容を順番に作成してゆきましょう。

まずは、フォームの初期化処理です。この処理は、フォームのLoad イベントプロシージャで行ないます。このイベントプロシージャは、プログラムが起動しフォームが表示される直前にフォームに発生します。そこで、プログラム起動時にプログラムのいろいろな構成要素を初期化する際は、このイベントプロシージャを活用します。

これまでに、イベントが発生するとプログラムの内部では、「自動的に“イベントプロシージャ”というプロシージャが呼び出される」と説明しました。プロシージャとは、コードの小さなひとかたまりの単位です。

このイベントプロシージャは、プログラマが作成しなくても Visual Basic .NETが自動的に作成してくれます。そこでフォームのLoad イベントプロシージャを作成することにしましょう。

まず、フォームデザイナー上でフォームをダブルクリックします。すると、自動的にコードエディタが表示され、フォームのコードページが開きます。そして、ここにフォームのLoad イベントプロシージャが作成されます。